懐徳堂研究センター ニューズレター No. 1

懐徳堂 News Letter

ごあいさつ

平成11年（1999）、大阪大学文学部は、附属施設として「懐徳堂センター」を開設しました。文学部内に散在する貴重資料を集約し展示しようというのが主な目的です。

しかし、展示のための適切なスペースが部内に得られなかったことから、このセンターは事実上、懐徳堂のデジタルコンテンツを展示解説し、懐徳堂研究の拠点として活動するという性格を強くしていくことになります。また、大阪大学の創立七十周年記念事業（2001年）で制作された懐徳堂学舎のCGや貴重資料のデータベースが注目を集め、学内外からの取材を受ける機会が多くなりました。さらに、大阪大学附属図書館からも、資料の調査・出納に関して協力を要請されることしばしばでした。そうした取材や調査に対応してきたのが、このセンターです。

こうしたセンターの実態を踏まえ、平成21年（2009）5月、「懐徳堂センター」が改組され、新たに「懐徳堂研究センター」が発足しました。

この懐徳堂研究センターは、大阪大学文学研究科の教育研究理念に沿って、懐徳堂に関わる調査・研究・広報の拠点としての役割を果たすことを目指します。

各位のご指導のもとにその使命を果たしていきたいと思います。

懐徳堂研究センター長　湯浅 邦弘

■懐徳堂研究センターのシンボルマーク

懐徳堂研究センターの発足を機に、研究の意義を新しい価値として未来へ創出していくため、新たにシンボルマークを制定しました。

このマークは、「温故知新」を基本コンセプトに、中井履軒が作成した天体模型「天図」をモチーフとして開発したもので、無限性、永遠性を象徴する「円」を基調としています。天図が地球を中心に回転し、重なり合う部分を幾何学的にデザインすることにより、未来への躍動感を印象づけることを企図しています。

■懐徳堂研究センターに至る歴史

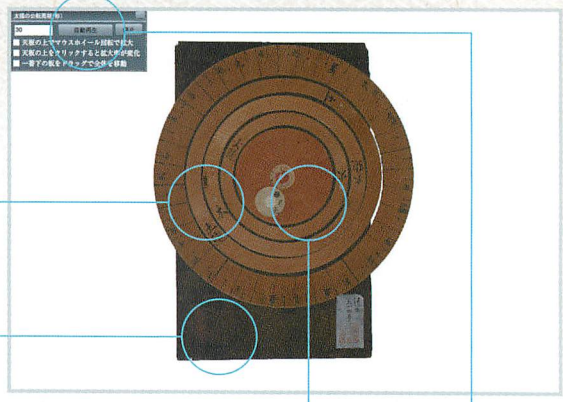
享保 9年（1724）　大坂今橋（現・大阪市中央区）に懐徳堂が設立。
享保11年（1726）　幕府が懐徳堂を「大坂学問所」として官許。
明治 2年（1869）　懐徳堂が閉校。
明治44年（1911）　懐徳堂記念会設立。
大正 2年（1913）　文部省が懐徳堂記念会を財団法人として認可。
大正 5年（1916）　懐徳堂記念会が懐徳堂を再建（重建懐徳堂）。
昭和 6年（1931）　大阪帝国大学が発足。
昭和20年（1945）　空襲により重建懐徳堂が焼失。
昭和23年（1948）　大阪大学に法文学部を設置。
昭和24年（1949）　大阪大学が新制大学へ移行。大阪大学法文学部から文学部が独立。
　　重建懐徳堂の蔵書と職員を大阪大学へ移管。
平成11年（1999）　文学部の「大学院重点化」開始。大阪大学文学部内に「懐徳堂センター」を設置。
平成16年（2004）　大阪大学が国立大学法人となる。
平成21年（2009）　「懐徳堂センター」が改組され「懐徳堂研究センター」発足。

KAITOKUDO

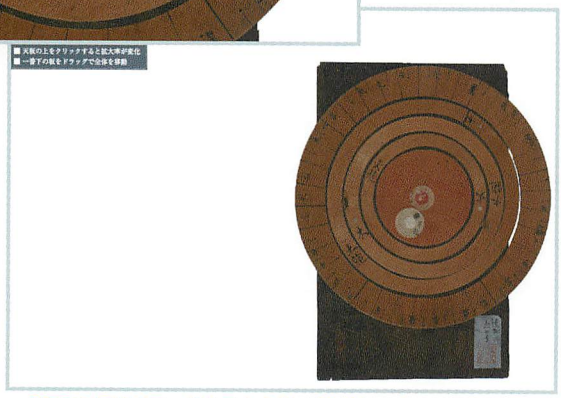
デジタルコンテンツ紹介 WEB懐徳堂（http://kaitokudo.jp/）

天図シミュレーション

中井履軒が作成した木製回転式の天体模型を電子化しました。実物は今から二百年以上前のものであるため、WEBで動きをシミュレーションできるようにしています。各円盤は、自動または手動で動かすことができます。これにより、この天図が、見かけ上は太陽中心でありながら、実際には地球を軸に全体が回転する、つまり、天動説と地動説の折衷形態にあることが分かります。



天板の上でマウスホイールを回転すると拡大します
天板の上をクリックすると拡大率が変化します



一番下の板をドラッグすると全体が移動します

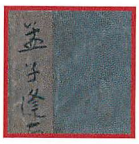
自動再生で回転を開始します
または、天板の上をドラッグすると各部分が回転します

WEB懐徳堂デジタルコンテンツ一覧

デジタルコンテンツの特性を生かし懐徳堂の豊かな歴史を再構成しています。

天図シミュレーション
動かしてみる木製「天図」

懐徳堂四書－孟子編－
デジタルブック『孟子逢原』



懐徳堂四書
懐徳堂「四書」注釈

懐徳堂印－中井竹山編－
中井竹山の印と印存

CONTENTS

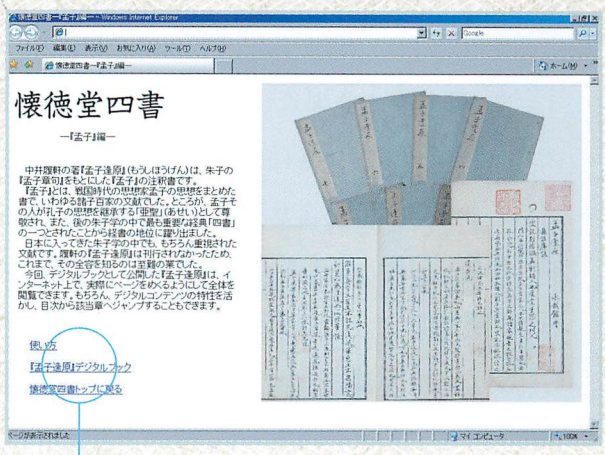
懐徳堂四書－孟子編－

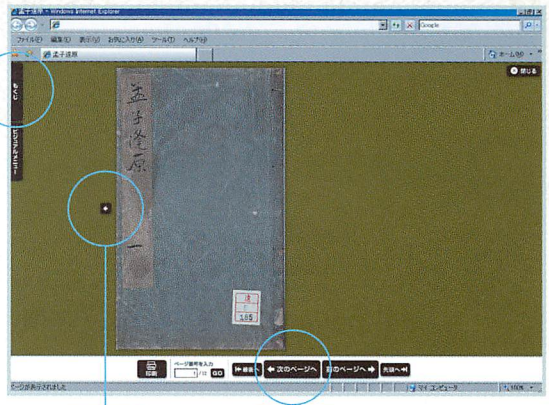
中井履軒の著『孟子逢原』(もうしほうげん)は、朱子の『孟子章句』をもとにした『孟子』の注釈書です。

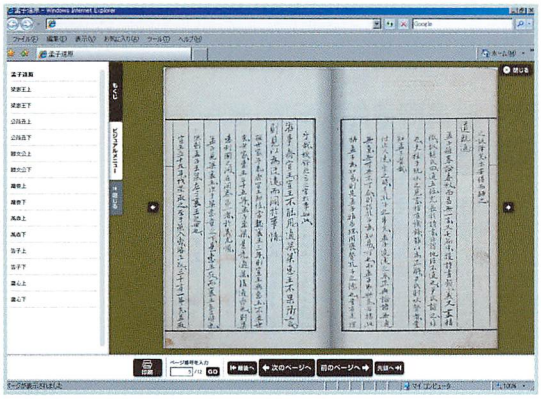
『孟子』とは、戦国時代の思想家孟子の思想をまとめた書で、いわゆる諸子百家の文献でした。ところが、孟子その人が孔子の思想を継承する「亜聖」(あせい)として尊敬され、また、後の朱子学の中で最も重要な経典「四書」の一つとされたことから経書の地位に躍り出ました。

日本に入ってきた朱子学の中でも、もちろん重視された文献です。履軒の『孟子逢原』は刊行されなかったため、これまで、その全容を知るのは至難の業でした。

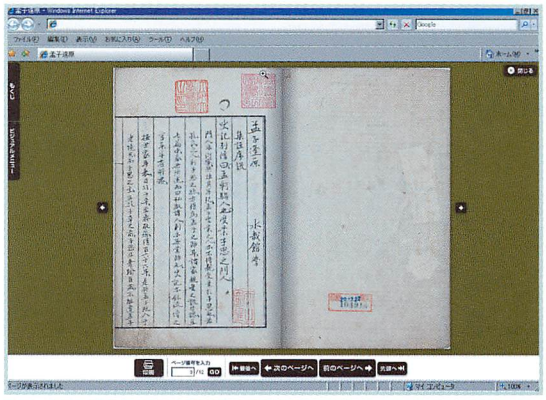
今回、デジタルブックとして公開した『孟子逢原』は、インターネット上で、実際にページをめくるようにして全体を閲覧できます。もちろん、デジタルコンテンツの特性を活かし、目次から該当章へジャンプすることもできます。







目次から該当章へジャンプできます



ページをめくるように閲覧できます

懐徳堂印－中井履軒編－
中井履軒の印と印存

印章展示
印章とその印譜

懐徳堂『左九羅帖』
懐徳堂を代表する本草書

絵図屏風展示
絵図面で見る歴史

CG懐徳堂WEB版
現代に甦る懐徳堂

懐徳堂研究センターの業務

1. 懐徳堂に関わる調査・研究、資料の収集・作成（デジタルコンテンツを含む）
2. 『懐徳堂研究』（年1回定期）、パンフレット、ニューズレター（不定期）等の広報媒体の編集・刊行
3. 懐徳堂研究の総合サイト「WEB懐徳堂（http://kaitokudo.jp/）」の管理運営
4. 学内外における懐徳堂資料の展示、講演会などの開催
5. 懐徳堂記念会の事業に関わる資料調査等の協力
6. 本学附属図書館および総合学術博物館の業務に関わる懐徳堂関係資料の調査等の協力

懐徳堂研究センターQ＆A

Q 懐徳堂について取材するにはどうしたらよいですか？

A 本センターにお問い合わせ下さい。専任職員は配置されていませんが非常勤職員がいますので、まずはお電話（06-6850-5088）などでお問い合わせ下さい。その内容に応じて、適切な教員・機関をご紹介します。

Q 「懐徳堂文庫」所蔵の貴重資料を閲覧するにはどうしたらよいですか？

A 懐徳堂に関する貴重資料は、一部を除き、大阪大学附属図書館に配置・集中管理されています。閲覧等の手続きについては、附属図書館利用支援課（〒560-0043大阪府豊中市待兼山町1番4号、06-6850-5069〈FAX〉）へお問い合わせ下さい。

Q 懐徳堂の講座を受講するにはどうしたらよいですか？

A 懐徳堂記念会の春秋講座・古典講座は、財団法人懐徳堂記念会が主催しています。問い合わせ・参加のお申し込みは、懐徳堂記念会（http://www.let.osaka-u.ac.jp/kaitokudo/）へお願いします。

※その他、詳細は懐徳堂研究センターHPをご覧下さい。

OSAKA UNIVERSITY 大阪大学

懐徳堂研究センター
http://www.let.osaka-u.ac.jp/kaitoku-c/
〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5 大阪大学大学院文学研究科内
06-6850-5088（直通）

2010.3